

21世紀のまちづくり

～日本再生に向けた総合特区～

平成23年10月15日

日本再生プログラム推進フォーラム
地域のひな型研究会

はじめに

3月11日の大震災から7か月以上が経過しました。
私たちの生活は、震災以前に戻ることが出来るのでしょうか？
今回の震災は千年に一度の大震災と言われています。
これだけ大きな震災に遭遇しながら、
それでも以前と何も変わらない、という訳にはいきません。
様々な面で、私たちは変わらなければなりません。
違う言い方をすれば、変わるチャンスです。

例えば…

- ・地震や津波などに対し脆弱な土地で暮らしていても良いのだろうか？
- ・自然に勝とうとか原子力をコントロールできると思うことは間違いでは？
- ・大量輸送機関を使った物資輸送がないと成り立たない日常生活で良いのだろうか？
- ・いざという時に助け合えるような近所付き合いがもっと必要なのではないだろうか？
- ・そして、そもそも、こんなにエネルギーを使っている良いのだろうか？

未曾有の大震災から学ぶこと

大震災の経験から、今後の地域の復興にあたっては、以下のような事柄を十分考慮する必要があるのではないのでしょうか。

- 災害の危険性のない、永く暮らし続けられる大地での生活を…
- 自然や未知なるものに対する畏敬の念を忘れずに…
- 遠隔地からの大量輸送に頼らず、人材、食料、エネルギー、財源などの地産地消を大切に…
- 生活の基盤である地域コミュニティを、もっと元気に、豊かに…
- 戦略的低エネルギーへの挑戦、そしてその実現を…

東北はもちろん関東、そして東京に住む人たちも、気付いたはずです。今回の震災による被害は、想定外ではなかった。「このままではいけない」と。

今までのままでは、「健康で持続可能な生活」とは言えません。衣食住が満喫できて、そこで生活する人たちが光り輝き、住み続けることが出来る町。そのためには、日常のライフスタイル、生活様式、毎日当たり前をやってきたこと、これらの多くを変えていかないと、本当の21世紀を迎えることは出来ないのかも知れません。

震災は、時代の流れを加速させます。今回の大震災からの復興は、真の意味での「21世紀らしいまちづくり」を促進することになります。今が時代の分かれ目です。

21世紀らしいまちづくり

不安定なエネルギー供給や流通で不便を被るなら、劇的な低エネルギー生活と安心な地産地消の実現に取り組んだ方が、苦勞の甲斐があります。しかも、環境に優しく自然災害とも無縁の国土利用の推進で、私たちは「健康で持続可能性の高い生活」を手に入れることができます。

時代の突破口を開く技術で、暮らしを、家庭を、地域を変えることができます。エネルギー総量を劇的に減らし、それでもなお、現在よりも生活の質を向上させる社会づくりを。。

これは、21世紀らしい地域づくりの基本であり、また、「懐かしい未来」への第一歩でもあります。懐かしい風景の中に、最先端の技術を埋め込むことで、新たな豊かさを手に入れることができます。

そして、地域における究極の競争力である「個性」を、発展の原動力にすることもできます。無限かと思われたエネルギーを駆使して、必死に地域の個性を破壊してきた歴史を、ここで転換してはいかがでしょうか。

過去を踏まえ、今という時代を再定義し、未来への方向性を地域住民全体で合意し、新しい地域づくりに取り組むべき時は、まさに今です！

新しい国づくりに向けての時代認識

現在の局面

90年代は、経済が行き詰まり、大企業はグローバル化を選択。政府はそれを後押しするために、金融や労働面などの各種規制緩和を実施。しかし、後進国との戦いは熾烈なもので、また規制緩和にも限度が…。昭和の恐慌で大陸に進出した日本は、その後、大変なことになって戻ってきた。同様に、90年代の選択も、長くは続かない。そして、政治経済が本格的に行き詰まった今、日本はどうすべきか？既存の組織は動けない(機能不全)。既存組織を壊して自分たちで国づくりを！

日本本来の国づくりを！

本来の国づくり=原点回帰=どういう統治をすれば日本はうまく治まるか。

日本は本来、『お国柄』で国づくりを進め、国を治めた。

- ・官治ではなく、日本古来の民政自治(自分たちで国づくりを！ = 村の自治)
- ・村の仲間と専門家が集まり、地域を動かす →
- ・誰かに言われて右向け右、ではない →
- ・村が違えば言葉もルールも違う社会 →

第2の城下町を！

新しい国づくりへ向けての基本的な認識①

物質文明は極限まで行きついた

極限まで行きついたら、次は選択の時代である。

自らの理念に基づいて、どれを選択するか、
どう編集するか、が問題。

縄文時代の生活は、環境共生で、
神々しい生活だった。

成長志向から、選択の時代へ。

そして、物質文明と精神文明の融合と相乗効果を。

新しい国づくりへ向けての基本的な認識②

新しい社会の潮流

「世界最適生産・最適調達」の時代から、

「地域・民族ごとの個性化」の時代へ。

「金融と市場原理主義」の時代から、

「雇用が第一」の時代へ。

「生産と消費」の時代から、

「所得と雇用」の時代へ。

「量・即戦力」の時代から、

「質・熟練」の時代へ。

「安価で大量の世界調達」の時代から、

「地域自給と戦略的低エネルギー」の時代へ。

「官と民の対峙」の時代から、

「新しい公共」の時代へ。

新しい国づくりへ向けての基本的な認識③

『お国柄』の国づくりを進めるための総合特区

官治ではなく民治、自分たちで国づくりを進めよう！
地域の人と専門家が集まり、地域を動かそう！
地域が違えばルールも違う社会づくりを進めよう！

「行き過ぎ」から戻ってやり直す、という思想

大震災からの復興を契機として、
以前の状態には二度と戻れない、ということを知り、
新しい地域づくりを。

なぜ今、大震災による困難があるのか？

この試練は何のために？
宇宙は進化を希望している。
愛に満ちた宇宙を創るための進化。
そのために、より良くするための試練。

民政自治で
第2の城下町を！

新しい国づくりの基本理念

国家運営の基本理念

偉大なる共生社会の創造 — 共生とは進化なり —

国家運営のビジョン

21世紀世界初の『戦略的低エネルギー社会』の建設
ライフスタイルを見直し、社会の持続可能性を高める

- ・エネルギー消費を劇的に減らす「**戦略的低エネルギー生活**」の実現
- ・大量輸送に頼らない「**地産地消**」と「**個性を活かしたまち**」の実現
(資源・食糧・エネルギーの自給自足、究極の競争力「個性」の尊重)
- ・自然との共存で明日につなげる「**安心安全の国土利用**」の実現

国家運営で最も大切にされるもの

健康と持続可能性 (いわゆる「LOHAS」的な国家運営を)

新しい国家運営の基本戦略

- ① 巨大な権力によるシステム運営ではなく、**小規模分散型システム**による運営。企業は中小零細企業に分裂し、国家に隷属しなければ生きていけない人たちには自立の道をつけ、**地域は独自に自立できる道**をつけ、それぞれが**得意技**を持って国内外にネットワークを張る**ネットワーク社会**とする。
- ② 日本の政府・財政の崩壊には、日本古来の風習である**民政自治**で対応する。
- ③ 民政自治は、目に見える形としては「**第2の城下町**」の建設。すなわち新しい経済・生活の基盤と中心を**自分たちで作っていく**。
- ④ 日本で民政自治が行われていた縄文時代、戦国時代でも決して鎖国ではない。人々は自然に海を越え、山を越え、**交易**を行っている。今も同じだ。むしろ**自然な形**で日本の強いところで**稼ぐ**ことができる。
- ⑤ 放射線の除染は、**新しい科学に道を開く**ものでもある。
- ⑥ 金融については、**投資銀行**を作って、銀行に退職されている円を①から⑤の新しい国家建設投資に回して収益を上げ、その収益力で円の価値をある程度支える体制を作り、状況を見ながら次の手を考える。
- ⑦ 国内の立て直しに励むことが賢明。世界も**日本の技術やノウハウ、文化、人**は必要としている。大混乱の時代でもそれなりに日本は収益を稼ぐことができる。

新しい国家運営の個別具体的戦略

- ① **一人一芸 プラス チームワーク: 個の花を咲かせよう**
老いも若きも個性を生かして生涯現役、都市も地方も個性を生かしてそれぞれ発展。
- ② **新しい人生設計**
20代は模索、30代は現場、40代は現場のリーダー、50代は経営のリーダー、60代以降は本当にやりたいことに打ち込む第2の人生。
- ③ **少子高齢化時代に競争力のある経済**
量から質へ、唯一無二の高付加価値製品の開発と世界への貢献。
- ④ **外交安保以外は徹底的に地方分権**
21世紀の新しい地方国家の建設。地方で循環(人・権限・財源・資源)、地産池消。
- ⑤ **政府の役割は地域ごとに設計運営**
政府の運営は、地域の実情と戦略に合わせて。
- ⑥ **日本の外交方針**
ウィン・ウインのたくましい外交。
- ⑦ **政府に対する国民負担**
地域ごとに設計。原則は中負担中サービスと、新しい公共の活用。
- ⑧ **教育のこと**
未だ国論統一せず。
地方、地域ごとにベストと考える教育をそれぞれやってみて10年後に再検討。

新しい国家運営の当面の施策

緊急雇用対策としての

日本列島の大掃除：国土の徹底的な大掃除と安全対策
不要となった構造物の解体撤去、土壌、河川、湖沼、海の徹底的な浄化、広葉樹への植林のやり直し、抜本的な防災対策等。

国家目標を実現するためのひな型としての

総合特区の建設

官治ではなく民政自治、自分たちで国づくりを進める。
地域の人と専門家が集まり、地域を動かす。
地域が違えばルールも違う社会づくりを進める。

全国の人、地域、企業を横に結ぶための

国民大集会の開催

総合特区の基本理念・ビジョン

偉大なる共生社会の創造

～美しく豊かでモラルある国づくりのひな型～

LOHASでクリエイティブな低エネルギー社会を、舞台裏のスーパーテクノロジーが両立・補完・相互に支え合うハイブリッドな生活を、信頼できる仲間たちとの協働で手に入れる(サステナビリティな生活＝ハイブリッドなクリエイティブライフ)。

総合特区で手に入れたい夢

地産地消や個性の重視、安心安全な国土利用を進め
戦略的低エネルギー社会(LOHASな社会)による日本再生を目指す

人も社会も健康で持続可能性が高く、しかもそれがライフスタイルの中に組み込まれている。平和、経済、資源・食糧・エネルギー、治山治水、心身の健康、歴史文化などあらゆる面で、**持続可能性が高い社会**。その実現のために個別に対処するのではなく、すべてが成り立つライフスタイルを形成する。次の都市計画の基本である**地産地消や個性重視、安心安全な国土利用を進め、戦略的低エネルギー社会、すなわちLOHASな社会の実現**で、これまでの日本と上手に融合しつつ、今までにない**新しい文化を創造**する。

総合特区で手に入れる夢のイメージ

「昭和30年代の日本」を

戦略的低エネルギー生活の一つの手本に

古い日本と折り合いをつけながら、LOHASの新しい文化、社会を。仏教と神道、欧化政策など、日本は共生・融合によって進化し続けてきた。それでも誇るべき文化やシステムは、風土に、精神に、習慣に、残っている。そして、それは世界の憧れとなっている。これが日本の価値であり存在意義であり、防衛力でもある。

具体的なイメージ

- ①風景・景観・・・「森に浮かぶ国、日本」「自然と共にある国、日本」「個性」
- ②仕組み・・・LOHASと地産地消、戦略的低エネルギー、ハイブリッド
- ③暮らしぶり・・・三世代が役割を持ち、家族として、生涯現役で暮らす
- ④働き方・・・熟練形成が重視される社会
(職業によって服装や体格、ライフスタイルが異なり、一見して職業が判る)

人々の選択

低層低密の分散社会か、高層高密の集中社会か。
バーチャルな世界でのやり取りか、土に近いリアルな世界での生活か。

実現に向けて共有すべき価値観

①健康であること。持続可能性が高いこと。

人の衣食住全般、そして自然や地球全体の健康を考え、持続可能性ということに価値を置いて、自分のライフスタイルを再構築。

②横型リーダーシップ、チームワークを基本とすること。

人と人との結びつきを意識し、その思い、自覚と責任感で、多くの人の思いと知恵を融合。一人一人がリーダー。

③バランス感覚を大切にすること、考え方を、生き方を。

バランス感覚(新旧・労使・人と自然、共済、競争の功罪、コラボレーション)を大切に。道徳経済合一、モラルのある競争、労使バランス。論語や儒教をベースにしたガバナンス。ハイブリッドな考え方で。

④倫理(明德=良心=仏心=良知=致良知)を大切に。

生態系や人類文明の良いところなど、価値あるもののサステナビリティを大切にすること(21世紀は倫理の時代)。

実現に向けて共有すべき価値観

⑤至誠一貫

きわめて誠実な心やまごころを貫き通す。大切なことを、ブレずに粘り強くやり通す。日本再生に携わる喜びを次世代に引き継ぐ努力。公共と子孫のために、血と汗と涙、努力を惜しまない。御用達の心。

⑥生命こそプライオリティNo.1

人間の希望を次の世代へ引き継ぐために、生命と健康が第一優先課題と考える。全ての生命の源である地球とその自然を保全することを、私たちの責任と考える(優先順位は、生命、生活、経済の順)。

⑦国民総幸福量世界一をめざす

地域の豊かさを経済規模だけでは計らず、国民総幸福量を高め、みんなが幸せを感じられる社会にこそ価値を置く。価値の基準をモノからサービスへ、モノから人へ転換。物質経済から知識経済への移行を促進し、投資の対象としても物的資源より人財を重視する。

総合特区実現に向けての戦略

【**枠組み①:総合特区をつくる**】

山の上から河川を経て海まで、
中山間地、都市を一体の総合特区に指定し、
実験的に21世紀らしい日本のひな型を創る。

こうした総合特区を日本全国の各地域に創り、
地域色豊かな21世紀の地域を生み出す。

その過程で生まれる高い付加価値を持った、
技術、仕組み、人材、特産物などが、
国内外に普及することで、
総合特区のコストを回収する。

総合特区実現に向けての戦略

【**枠組み②:総合特区の制度**】

**規制強化と規制緩和を併用した制度改革を
(21世紀らしい制度づくり)**

- **公共性**

皆で我慢すると

皆で得をする仕組み「**公共性**」を重視

- **一国二制度**

地域らしさを演出するために

地域ごとの制度設計を現場の発想で

総合特区実現に向けての戦略

【**枠組み③：総合特区を支える技術**】

LOHASと低エネルギーの技術の結集を

- ①環境技術なども含めた衣食住遊働のすべての場面で、**個別の技術を統合**する。
- ②新しい技術と仕組みとビジョンで**昭和30年代の街と田舎に戻し**、日本再生のモデルを実践する。
- ③地域で使うエネルギー総量を劇的に減らし(**戦略的低エネルギー**)、なお現在より生活の質を向上させる(**ハイブリッドな生活**)。
- ④再生可能エネルギーの利用促進で、**脱化石燃料・脱原発**を実現する。
- ⑤都市のスケールメリットを活かして、資源・エネルギーの循環利用を促進し、地域の**脱炭素化**をめざす。
- ⑥過疎化が進む地方では、**自然共生型のエコシティ**を実現する。
- ⑦想定外の事象にも対応でき「**弾力性**」を生活に盛り込む工夫も大切。新しい技術ではなく、**失われたものを取り戻すために**、**経済行為、社会づくりを考える(昔の日本に立ち返る)**。

総合特区実現に向けての戦略

【枠組み④：総合特区での暮らしと技術】

新しい暮らしを支える技術

建築の建設・利用・廃棄を通して、
発生する環境負荷を極小に抑える。

環境負荷の少ない移動・輸送手段へとモーダルシフトを進め、
不必要な移動は極力抑制(温室効果ガス排出ゼロでの移動)。

新しい技術で、
資源・食糧・エネルギーの多くを、地域で生産する。

交通も家庭も新しい技術を使って、
循環可能なエネルギーによって成り立たせる。

総合特区実現に向けての戦略

【国土と風土と風景①：総合特区と国土】

逆・公共事業

日本の風土を復元する逆・公共事業を推進する。

不要となった道路、建物、工作物を解体撤去して植林等を行い、

日本の良さが引き立つような風土を回復する。

特に風光明媚な場所の景観は徹底的に復元する。

山林、河川、海、農地も貴重な資源として維持発展

治山治水については、無理に守るのではなく、

災害の起こりにくいところに居住する。

（災害が起こる前提で、人災を起こさないようにする）

それぞれの環境資源の活用と、風景としての美しさを

維持発展させる。

その土地を、その土地らしく・・・そうすれば、人と土地が輝く。

総合特区実現に向けての戦略

【国土と風土と風景②：総合特区と風土】

風土の再生・再構築

土地条件に合った土地利用への転換

土地の有する地理学的、地質学的、生物学的条件などを考慮し、国土利用計画・都市計画の考え方を大きく転換させる。

それによって、地域の自然環境と対峙しない、
その土地の自然環境と共生し、

土地条件に合った土地利用への転換を大胆に進め、

「健康で持続可能な暮らし」を手に入れる(「**防災**」から「**減災**」へ)。

※国土地理院発行の土地条件図などを参考に

気候風土に合った住宅づくり

地域の気候風土、地形、地盤に合った住宅づくりを進める。

風土を活かすことで、エネルギーに頼り過ぎない、

地域に根差した造りの家づくり、その土地の風土や暮らし方、

生業に一番適した形での家、住宅地、地域づくりを。

総合特区実現に向けての戦略

【国土と風土と風景③：総合特区の都市と田舎】

新しい都市と田舎づくり

未来のまちづくりの見本は、過去(昭和時代)の景観の中に。
その土地が元気だった頃の風景を取り戻そう。

山、中山間地、川、海の昭和30年代の景観を再現しながら、
その一方で戦略的低エネルギー社会を実現、中身は最新の
技術と仕組みで、21世紀の都市と田舎を創る。

まちを整備することは、それを支える田舎の整備にもつながる。

生活基盤である元気で豊かな地域コミュニティの醸成で、
いざという時に助け合える近所付き合い、地域力を。

そして、官民が対峙する時代から、「新しい公共」の時代に。

総合特区実現に向けての戦略

【国土と風土と風景④：総合特区の風景】

懐かしい未来づくり

暮らしの中に地域性(歴史・風土)を組み込み、
風土との関連性ある暮らしを作る。

自然との共生、歴史との共生、文化・伝統との共生。

「らしさ」を演出すれば、美しい地域に、
戦略的低エネルギーになる。

レトロ・フューチャー(懐古的未来)

懐かしい風景の中に最先端の技術を埋め込む。

総合特区実現に向けての戦略

【産業①：総合特区での産業おこし】

新しい産業(地産地消)

地域に根差した地場産業を育成(地域の強みを活かす)する。

食料や資源の大半を地域の中で供給し、

地元の資源を活用した商売、地元の人々の暮らしに貢献する

サービス、御用達、唯一無二の高付加価値製品を育てる。

地域で資源食料の自給率を上げる。

これを可能にする技術を開発する。

(地域で採れる原料を加工し部品や素材にし生活を成り立たせる)

地域の特産物を開発し、国内外に販売する。

(外部の視点と縁で、個性に価値を見出し、外部の市場に繋げる)

(特産物があって、初めてその地域は経済的に自立する)

地域の中の限られた資源を、これからの時代に使う道具に変える。

新しい農林水産業の勃興の上に、

新しい製造業とサービス業が多様に発展(6次産業)。

総合特区実現に向けての戦略

【産業②：総合特区での産業と暮らし】

新しい産業と暮らし

食糧自給率を、農業の制度と技術の改革、国土に合った食習慣、食品廃棄物の極小化により100%にまで高める。

また**適地適作**を進め、その土地の風土に合った農業を展開し、風景としても美しい地域づくりを進める。

すべてが**エコプロダクツ／エコサービス**である社会を実現する。
また、**地産地消**をすすめ、**流通経路の短縮**を進める。

働く意思があれば、誰でもいつでも**生涯を通して働ける社会**。
年をとっても、障害を持って、やりがいをもって仕事ができる。
また、ワークシェアリングを進め、余った時間は農業に充てる。

意図的に体を動かし、**熟練度を高める仕事を創出**する。
第一次産業の復興から始めよう。

総合特区実現に向けての戦略

【人材①：総合特区での人づくり】

新しい人材育成

最低限の人生の成功を達成できる教育を。

豊かな農地と里山を教育の現場に。自然の恵みを活かすことを学ぶ。
多様なものに価値を見出すことが出来る。一生が学びの場になる。

子育てや教育は、学校、地域、家庭、職場が一体となっていく。

誰もがいつでも学べる教育環境を整えることで、
自分のペースで必要な知識を得ることが出来る社会。

エコしぐさ、エコことば、古老の知恵。

古来より伝わる考え方や行い、言葉などの知恵を、社会づくりに生かす。

新しい人材活用

三世代それぞれが役割を果たす家族。生涯現役。

いかにして自分の能力を社会に活かすか。

総合特区実現に向けての戦略

【人材②：総合特区での組織づくり】

新しい組織づくり

地域における人材の発掘。

実務能力の高い人、公益のために尽くせる人。

大義のために動ける人(利潤や損得ではない)を活かす。

民の企業家精神と実業家連携、フロンティア・スピリッツ。

専門家(プランナー、コーディネーター)を活用し、日本全体を動かす。

地域をリードする組織づくり(民政自治のための組織づくり)。

地域の再生に向けて尽力するリーダー。

そして、それぞれの立場で、能力に応じて活躍する地域の方々。

リーダーと共に横型リーダーシップ、チームワークを基本にした、

グレート・コラボレーションを発揮できる内外のスタッフ群。

- ・地元＋客観的に思い切った変化を起こせる外部スタッフ
- ・外部スタッフは、金と市場を引っ張ってこることが大切
- ・地元スタッフは、地元の良きものを活用し、地元から逃げないこと

総合特区制度を活用した取り組みへ

【個別テーマごとの総合特区の例】

サステイナブルデザイン国際会議の示す「サステイナブルなライフスタイル」と、NSPの描く未来像を融合させた、総合特区制度を活用する個別テーマの例を以下に示す。

- ①安心安全な国土利用への転換特区
- ②風土と風景再生特区
- ③戦略的低エネルギー特区
- ④再生可能エネルギー100%特区
- ⑤食料自給率100%特区
- ⑥地産地消と特産物開発特区
- ⑦地域のカーボンオフセット特区
- ⑧温室効果ガス排出ゼロ移動特区
- ⑨建築ゼロエミッション特区
- ⑩エコプロダクツ／エコサービス特区
- ⑪だれでも働ける地域づくり特区
- ⑫生涯学べる教育環境特区
- ⑬学校・地域・家庭・職場一体教育特区
- ⑭エコしぐさ、エコことば実践特区
- ⑮自然と共に生きる地域づくり特区
- ⑯マイナスインプакトレジャー実践特区
- ⑰脱物質経済特区
- ⑱国民総幸福量世界一をめざす特区
- ⑲生命こそプライオリティNo.1 特区
- ⑳情報アクセス100%特区

総合特区制度を活用した取り組みへ 【市町村ごとの取り組み】

全国の意識の高い市町村の中から、
個別のテーマに取り組みたい市町村を見つけ出す。
市町村ごとに、

- ・取り組み易いテーマ
- ・取り組みたいテーマ

を一つ、あるいは複数選んで頂き、
その実現のために総合特区の制度を活用し、
積極的にそれぞれの課題克服に取り組んで頂く。

※経済の話から始めると、そこでストップしてしまうので、
経済を前提にせず、実現したい社会像から迫ること。

※市町村単独では地域は成立しないので、
特区の周りとの関係性も重視し、境界を越えた連携を進めること。

総合特区制度を活用した取り組みへ 【市町村に対するNSPからの支援】

NSPは、各地で展開される個別の取組に対し、それぞれをサポート、コーディネートする。

特に、地域の方々と協議しながら、テーマに応じた、

- ・緩和すべき規制、強化すべきルール、まったく新しいルール
- ・強化または新規に期待されるサービス
- ・必要とされる技術や専門スタッフ

などについて、具体的に検討・提示する。

また、地域での活動を全世界にアピールするために、

- ・国内外での多様なメディア戦略(世界を応援団に)

を積極的に展開する。

総合特区制度を活用した取り組みへ 【一点突破、そして全面展開へ】

NSPとしての狙いは、
そのような市町村ごとの、
テーマごとの取り組みを全国各所で展開し、
それぞれの市町村での「**一点突破**」を目指す。

そして、その成功事例をもとに、
全国の普通の市町村に対し、
様々なテーマの実現手法を提示し、
長期的(20年、50年)視点での「**全面展開**」、
健康で持続可能な21世紀ニッポンを創造する。

21世紀ニッポンへの今後の展開

【具体的な進め方①】

新しい官民の関係:「新しい公共」と民政自治

民主導(民政自治)で、官が協調(コラボレーション)

官民の連携、逆さまのピラミッド、中央と地方の連携。

地方の人が主役。中小零細企業が主役。

支援者としての行政。支援者としての中央。

全国各地の地方から政府機能を再建し、

それぞれの新しい国を創る。

(東京抜きネットワークで)

新しい中央と地方の関係:バランスある発展

一極集中型・独占(寡占)の否定

特産品・地域開発(住宅・産業)・インフラの分散を。

地域の力で(基本は自力で)

必要性を説き、人材を作り、地域にお金を用意させる。

21世紀ニッポンへの今後の展開

【具体的な進め方②】

新しいファンドづくり

平成版日本興業銀行(プロジェクト・ファイナンス)

国家破産しても個人はたくさんのお金を持っている。
総合特区を創るために必要な人材、資金、技術、技能、さらには特産物の販売先などは、
日本再生のために創設する平成版日本興業銀行が仲介し用意。
平成版日本興業銀行は、経営と技術と市場の分かる人で構成。
実質的に総合特区のメインバンクとなる。

寄付の文化を

平成版日本興業銀行と並行し、
国を通さない新しい銀行としての、寄付の文化を！

明確な未来像を見せて、金を未来に投資させる！
そして、小さな政府の実現を！

21世紀ニッポンへの今後の展開

【具体的な進め方③】

新しい試みのエリア「総合特区」の指定

総合特区のエリア

市町村に関係なく、山から海まで(例えば、流域単位で)。
メディアを戦略的に活用しながら、国民運動で効果的な総合特区の創設機運を盛り上げ、官僚や政治家を誘導。

「大きなエリア」の総合特区

人と資源、お金が循環する仕組みを実験的に創設し、
仕組み(制度やインフラ)を見せるエリア

「小さなエリア」の総合特区

21世紀らしい新しい国土利用、景観を大胆に示し、
ビジュアルな姿を見せるエリア

21世紀ニッポンへの今後の展開

【具体的な進め方④】

新しい時代の扉

起爆剤(回天の原動力)で、人が集まる、金が集まる、人が走る

求心力と波及効果の高い「起爆剤」が必要。

蓄財(地域の個性)に焦点を当てながら、未来を感じさせる先進性。

伝統的な素晴らしさと、挑戦的な実験の組み合わせ。

この時代の最高の人と技術と思想を結集する「空気」を作る。

ステップ①政治経済の行き詰まり(機能停止)

ステップ②人材を一本釣り(組織の枠を超えた仲間さがし、溜り場を)

(地域ごとの戦国大名(リーダー)や有力者、技術者、有識者)

ステップ③民主導の総決起集会とメディア戦略(国内外)の展開

ステップ④集まった仲間たちと、新しい日本づくりについて議論

ステップ⑤そして、民が創る『城下町』を(具体的に動くところから)

(国のルールのないところで、経済中心に地域づくり)

※以上を実行する際に、投資銀行の人脈と金をフル活用し、産業と地域を興す

※大震災からの復興を契機に、全く新しいビジョンによって世界をリードする地域づくりを